

# かがやき

Hiroshima City Hospital public relations magazine

Kagayaki

## 変化する状況に いかに対応するか



広島市立広島市民病院 秀道広  
病院長（皮膚科）

広島市民病院は、昭和27（1952）創立以来、広島の中核的病院として発展を続け、今日まで脳心臓血管病変を中心とする救急医療、周産期医療を初めとする広範囲の医療分野での中核的診療を担う総合病院としての役割を担ってきました。また、地方独立法人に移行したとはいえ、その設立母体は引き続き広島市にあり、急性および超高難度の外科治療、新生児医療とともにウォークインと呼ばれる時間外の独歩による急患も幅広く受け入れています。そのためERの体制を充実させ、研修医達は日夜最前線でそれらの初期対応に当たっています。さらには広島市の中心部にある地の利、人の利とも相俟って、県内最大数の病床と手術室は所狭しと高い利用率を誇ってきました。しかし、2019年12月に中国は武漢に発した新型コロナウイルスは、またたく間に世界を覆い、当院もまたその波の中に巻き込まれることとなりました。

この未曾有の感染症の広がり、世界は全力で立ち向かい、わが国は今もあれこれ批判はあるものの、人々は協力してこの危機を受け入れ、乗り越えようとしていると思います。当院における初期のクラスター発生と手術室の緊急閉鎖は痛恨の極みですが、現在、その経験を踏まえ、より厳しい行動指針の元に全職員が一致団結して苦境を乗り越えようとしているところです。5月の第4波における広島県の医療体制は本当にギリギリの状態でした。総合病院といっても直接 COVID-19患者の診療に当たることのできるスタッフは限られており、また、COVID-19へ対応するためにはそれ以外の医療への搬寄せは避けられません。コロナを取るのか、一刻を争う脳血管障害や心筋梗塞への対応を断るのかという選択にマニュアルの作りようもなく、県内の医療関係者の会議では歯ざしりする思いを重ねました。6

月にいったん沈静化した感染者数は、7月から再び増加し、この原稿を書いている8月初めの段階では、第4波よりは対応力を高めているものの、やはり今後の展開の予想は困難な状態です。

私は、本年4月に広島大学から広島市民病院に赴任してきました。赴任してみると、そのハード、ソフト、そして当院を信頼し、期待を寄せて受診いただく患者さんの数と疾患の豊富さは群を抜いており、改めて当院が果たしてきた役割を認識することとなりました。しかし、その一方で思うことは、広島市という、少々厳しい台所事情とはいえ大きな地方都市の行政を母体とする故の安定感と、逆に数多くの規則、慣習によるフットワークの重さです。やがてワクチンは広がり、治療の方法も充実し、感染蔓延は沈静の時を迎えることと思いますが、世界が完全にコロナ以前に戻ることはないでしょう。多くの失業、倒産とは裏腹に、株価はポストコロナを覗いて上昇しています。

生命の進化の歴史を振り返ると、大きな環境の変化の次に訪れる時代に旧時代の盛者の姿はなく、繁栄を手にするのは常に環境の変化に適応し、新たな機能を獲得した生き物たちであることに気づきます。長く厳しい困難の中で、ただその嵐が過ぎるのを待つか、それとも嵐の中で生き残ることのできる新しい能力を模索し、強化していくかが次の時代における明暗を分けると思います。改革、挑戦には常に危険があり、また痛みを伴うものですが、少しでもコロナ禍を奇貨として、知恵を出し、自己変革を続けることで、新しい状況への取り組みが消耗ではなく、さらなる力と柔軟性を持つ病院を目指したいと思います。新しい市民病院をどうぞ宜しく願います。

## 就任のご挨拶

平素より、広島市立広島市民病院に対しご高配を賜り、誠にありがとうございます。

このたび4月1日付で特任病院長を拝命いたしました。改めて私の経歴を述べさせていただきますと、1982年に岡山大学を卒業後、1991年に当院に赴任し30年目を迎えました。当院では消化器外科を中心に修練を行い、1997年から肝胆膵領域の外科手術を担当してきました。当初は症例数も少なかったのですが、最近では多くの肝胆膵悪性腫瘍の手術を行うことができるようになりました。日本肝胆膵外科学会高度技能専門医修練施設Aの認定をはじめ、肝癌、膵癌の腹腔鏡手術やロボット手術の認定施設ともなっています。肝胆膵領域は、患者さんの御紹介がなければ成り立たない分野であり、連携してくださる先生方には本当に心から感謝しております。その後2010年に外科主任部長、2015年に副院長を拝命し2016年からは医療安全管理室と医療支援センターを担当してきました。



特任病院長  
塩崎 滋弘

今年度から秀道広先生が病院長に就任されましたが、特任病院長としての責務を果たし、秀病院長を支えながら病院職員と共に、当院の発展に努める所存です。私を医師として育ててくれた非常に思い入れの深い広島市立広島市民病院に恩返しができればと考えています。

さて2020年に世界中を襲ったCOVID-19感染は、世の中の構造やしくみを大きく変えてしまいました。医療界においては、日本は世界に誇る有数の病床数を保持していたにもかかわらず、COVID-19感染者に対する治療には難渋しました。特に重症患者の増加とともに患者の受け入れは一気に逼迫し、医療崩壊という言葉が各所で唱えられました。当院でもCOVID-19中等症・重症患者を受け入れながら、同時に当院の重要な使命であるCOVID-19以外の救命を要する救急患者の治療に当たりました。本当に手探りの状態で、何とかここまでやってこられたという印象です。最近ではさらにワクチン接種業務も加わっていますが、刻々と変わっていく状況に対応し、黙々と業務をこなす当院の職員には感謝しかありません。

まだまだCOVID-19との戦いは続きますが、今後はアフターコロナを見据えた病院構想も考える必要があります。人口減少に伴って予想されてきた患者減少は、COVID-19による受診控えによって一気に加速しました。今後在宅医療の強化とともに医療機関の機能分化や役割の変化は避けられない事態となります。当院は高度医療、救急にさらに重点を置きながら、この地域の連携をさらに強化し、広域にも連携を広げる必要が強く求められます。

With/After COVID-19の激動を皆様のご協力を得ながら、職員一同力を合わせて乗り切ろうと考えています。今後ともご指導ご鞭撻をよろしく願いたします。

# リハビリテーション科紹介

～急性期にリハビリを開始して、  
機能回復を～



副 院 長

西川 公 一 郎

4月に副院長に就任した西川公一郎です。

1993年4月から2018年3月まで市民病院でお世話になり、3年間の広島市立リハビリテーション病院での勤務を経て、再度広島市民病院勤務となりました。診療科は整形外科とリハビリテーション科です。

3年前と比べリハビリテーション科は職員も増え、活動が充実していますので、リハビリテーション科を紹介します。

リハビリテーション科は中病棟の2階にあり、理学療法士10名、作業療法士5名と15名のセラピストが所属しています。リハビリテーションというと、脳卒中や怪我、手術が落ち着いて開始するという印象があるかも知りません。しかし、早期にリハビリを開始すると回復が良好なことがわかり、「急性期リハビリ」の重要性が高まってきました。広島市民病院は急性期病院ですので、早期にリハビリを開始して機能回復のお手伝いをしています。さらにリハビリが必要な場合は、スムーズに回復期の病院に移行できるように努めています。2020年度は2775名の入院患者さんにリハビリを行っています。各種疾患のかたに、疾患別リハビリテーションを行っています。(表1、表2)

また、耳鼻科に5名の言語聴覚士が所属し、高次脳機能障害、言語障害、嚥下障害のリハビリを行っています。連携して治療を進めています。

もし、リハビリが必要となりましたら、リハビリ科の職員がお手伝いさせていただきます。



表1 リハビリ患者延べ人数と単位数 (2020年度) 表2

	のべ人数	単位数
脳血管疾患リハビリテーション料	8,889	16,605
廃用症候群リハビリテーション料	4,878	8,524
心大血管リハビリテーション料	7,007	13,333
呼吸器リハビリテーション料	1,466	2,719
運動器リハビリテーション料	6,325	11,099
がんリハビリテーション料	4,129	15,577

新患者数 (過去3年間)  
2018年、2483件。2019年、2663件。2020年、2775件。

## 脳血管疾患リハビリテーション

脳梗塞、脳出血、くも膜下出血、頭部外傷  
神経疾患等

## 廃用症候群リハビリテーション

各種の疾患で長期の安静や活動性が低下したこと  
による身体状態の低下

## 心大血管リハビリテーショ

心筋梗塞や動脈瘤などの心血管障害等

## 呼吸器リハビリテーション

肺炎や慢性閉塞性肺疾患等の疾病による呼吸機  
能の低下

## 運動器リハビリテーション

人工関節置換術後や骨折などの運動器の障害等

## がんリハビリテーション

がん患者さん

# 脳卒中センター

脳神経内科・脳卒中センター 野村 栄一

脳卒中の診療は「専門性」と「時間との闘い」を両立させる必要があります。このために、脳卒中を専門とする医療従事者が、いつでも即座に対応できる医療施設が必要です。

当院では脳卒中に関しては、これまで脳神経外科・脳血管内治療科と脳神経内科が、それぞれ診療を行ってきました。しかし、初療から協力して診療にあたることも多くなってきているため、2021年4月1日に院内に両診療科による「脳卒中センター」を救命救急センター内に設立しました（センター長 廣常信之、センター長補佐 野村栄一）。これにより、今まで以上に多職種のチームで協力して、より良い脳卒中診療を提供できるようになると考えています。

脳卒中の中でも、脳の血管が詰まって生じる脳梗塞は、1分間に約190万もの細胞が失われるという研究があります。一方で、詰まった血管を再開通させる治療により、それを止め、症状を劇的に改善させることが可能であり、特に「時間との闘い」が要求されます。現在詰まった脳血管を再開通させる治療には、点滴で溶かすrt-PAとカテーテルによる機械的血栓回収療法があります。

当院は、脳神経外科・脳血管内治療科および脳神経内科が、救急科と緊密な協力体制をとり、24時間365日脳卒中診療を行うことができる体制を整えています。さらに、rt-PAの治療だけでなく、機械的血栓回収療法、開頭手術にも即応できる専門医がそろっています。脳神経血管内治療学会専門医、血栓回収療法実施医があわせて5名在籍（2021年4月）しており、当院の「脳卒中センター」は広島市の脳卒中診療のコア施設として、全力を尽くしていきたいと思っております。

## 診療担当医師について（2021年4月）

救急科・脳神経外科・脳血管内治療科・脳神経内科の医師が協同して診療にあたります。現在、脳卒中学会専門医取得者8名、脳神経血管内治療学会専門医取得者4名、脳神経外科学会専門医取得者4名、血栓回収療法実施医取得者1名が在籍しています。



# 研修医

こんにちは！広島市民病院初期研修医広報担当です！  
「泣くな研修医」といったドラマも開始され、注目される頻度も増えてきました。この「かがやき」をご覧になられている方々の中にも、ご存知の方もおられるかと思っております。

初期研修医は各診療科を基本的には1ヶ月毎ローテーションして、2年間の臨床研修を行なっています。当院では、1年次、2年次各13人、他大学からのたすきがけ研修数名の総勢30人程度が研修をさせていただいています。

日々の研修としては、入院患者さんに対する病棟業務、各診療科に応じた手術や検査、夜間救急外来での診療等を行なっています。指導の下ではありますが、基本的には医師免許を持つ医師なので、責任を持って各診療業務に携わっています。

このような日々の臨床研修に加えて、コロナワクチン接種にも研修の一環として参加をさせていただいています。

院内での接種に加え、市内各所の接種会場にも派遣されていて、接種と接種後の経過観察が主な業務になっています。

経過観察中にはアナフィラキシー等接種時の偶発症が起きた際に適切な対応をするために注意深く観察をする必要があります。筋肉注射は普段する機会の少ない手技になるのでどちらも貴重な経験になっています。

これから接種対象も拡大されていき、接種機会も増えていくことが予想されます、自分達でも積極的に関わっていくことで少しでもワクチンの普及に貢献できればと思います。



## 基本理念

患者さんと協働して、心のこもった、安全で質の高い医療を行います。

### ～基本理念実現のための3つの柱～

1. チーム医療を推進し、信頼され満足される医療を行います。
2. 地域医療機関との連携のもとに、救急医療と高度で専門的な医療を行います。
3. 健全な病院経営を行うとともに、すぐれた医療人の育成に努めます。

## 患者さんの権利に関する宣言とお願い

広島市立広島市民病院は、信頼され満足される医療を提供するため、次のような患者さんの権利を尊重します。

1. あなたには、個人として尊重される権利があります。
2. あなたには、良質で適切な医療を平等に受ける権利があります。
3. あなたには、診療に関して十分な説明と情報提供を受ける権利があります。
4. あなたには、自分自身の治療などについて、自分の意見を述べ、自ら決定する権利があります。
5. あなたには、当院での医療に関するプライバシーを保護される権利があります。

これらの権利を守り、より良い医療を実現するには、患者さんと医療提供者とが力を合わせて取り組む必要があります。そのため、患者さんも積極的に医療に参加・協力する責任があることをご理解のうえ、ご協力くださるようお願いいたします。

## 外来診療のご案内

### 診療受付時間

午前8時30分～午前11時00分

※眼科／火曜日

午前10時00分まで

診療科によっては休診日がありますので事前にご確認ください。

### 休診日

土曜日・日曜日・祝祭日・8月6日

年末年始（12月29日～1月3日）

### 紹介状持参のお願い

初診時、他の医療機関からの紹介状をお持ちでない場合、保険診療費のほか医科5,500円、歯科3,300円（H28年8月から）のお支払いが必要となります。初診の際には、紹介状をお持ちください。